

講 義 概 要

共 通 教 育 科 目

(旧全学共通科目)

A. 宗教科目

# 「宗教論」

1年次 90分 半年間の講義。

人文、外国語の2学部は春学期に、経済、経営、法の3学部は秋学期に履修。

登録方法：第3希望まで登録する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
00001	宗教論 [再]	必	秋学期	2	2~4	五百旗頭博治
他の科目との関連	前年度又はそれ以前の「宗教概論」不合格者又は未履習者					履修対象学科

**【講義内容】** 人類が継承してきた文化には、人々の宗教心が深く関わっている。そのために、現代世界の社会や文化を理解するには宗教に関する理解が不可欠である。さらに、本学はキリスト教精神を土台とした人間教育に取り組んでいるが、キリスト教がもつ価値を正しく評価するためには宗教そのものの理解が必要である。そこで本講義では、宗教理解への入門として特定の宗教を取り上げたり、また宗教現象の分析を通じて、宗教がもつ文化的・社会的意味、宗教と人間観・世界観の関係について考察する。この講義を通じて宗教に対する理解を深めるための基礎的な枠組みを修得することを目指す。

**【講義計画】** 本講義はキリスト教理解の基礎となる幾つかの問題をめぐって行われる。一つには宗教と学問と哲学、文学、芸術についての基本的考察から、更にそれら相互の親近性と相異性についての理解を深める。第二にキリスト教と他宗教の問題に目を向ける。第三に何人かの哲学者と神学者の宗教観、神観を紹介する。各時間の始めには短い解説と共に宗教音楽（クラシック）の名曲のテープから一つの楽章を選んで聞かせる。

序論：自己紹介と本講義の学び方

本論：Ⅰ. 宗教と宗教学—宗教とは何か；宗教の種類；宗教に関連或は隣接する諸現象（宗教意識、超常現象、神秘現象、臨死体験等）；学問とは何か；宗教と宗教学・キリスト教；宗教と哲学、芸術の共通点と相異点

Ⅱ. キリスト教と他宗教—「教会憲章」第2章；自力教と他力門の区別は有効か；道としての宗教

Ⅲ. 哲学者の神—Socrates、Platon、Aristoteles、西田幾多郎

Ⅳ. 神学者と神—Augustinus、Anselmus、Thomas Aq.

**【評価方法】** 期末の筆記試験（自筆のノートのみ参照可）と出席状況の両方から評価する。

**【テキスト】** テキストは用いない。「教会憲章」（第二章）はプリント配布する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
00002	宗教論 [H C・H・F]	必	春学期	2	1	西脇 純
他の科目との関連						履修対象学科

**【講義内容】** 人類が継承してきた文化には、人々の宗教心が深く関わっている。そのために、現代世界の社会や文化を理解するには宗教への理解が不可欠である。また、キリスト教がもつ価値を正しく評価するためには宗教そのものの理解も必要である。本講義では、宗教理解への入門として特定の宗教を取り上げるとともに、宗教現象の分析を通じて、宗教がもつ文化的・社会的意味、宗教と人間観・世界観の関係について考察する。この講義を通じて宗教に対する理解を深めるための基礎的な枠組みを修得することを目指す。

**【講義計画】**

1. 宗教の定義
2. 世界の宗教（その1）

3. 世界の宗教 (その2)
4. 日本の宗教 (その1)
5. 日本の宗教 (その2)
6. 新宗教の諸問題 (その1)
7. 新宗教の諸問題 (その2)
8. 宗教と死 (その1)
9. 宗教と死 (その2)
10. 宗教と文化 (その1)
11. 宗教と文化 (その2)
12. 宗教と文化 (その3)

【評価方法】 出席状況と学期末試験の成績による

【テキスト】 とくになし

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
00003 00004	宗教論 [H・F] 宗教論 [E・B・J]	必	春学期 秋学期	各2	1	枝村 茂
他の科目との関連						履修 対象学科

【講義内容】 人類が継承してきた文化には、人々の宗教心が深く関わっている。そのために、現代世界の社会や文化を理解するには宗教に関する理解が不可欠である。さらに、本学はキリスト教精神を土台とした人間教育に取り組んでいるが、キリスト教がもつ価値を正しく評価するためには宗教そのものの理解が必要である。そこで本講義では、宗教理解への入門として特定の宗教を取り上げたり、また宗教現象の分析を通じて、宗教がもつ文化的・社会的意味、宗教と人間観・世界観の関係について考察する。この講義を通じて宗教に対する理解を深めるための基礎的な枠組みを修得することを目指す。

【講義計画】 キリスト教は一つの宗教的文化現象であるという前提にたつて、類概念としての宗教の定義、機能、典型的分類ならびに宗教思想の主要テーマである死生観、世界観、宗教的歴史観、神観および救済思想を紹介しながらキリスト教の宗教的特異性を浮彫りにする。さらに宗教的文化財としての諸宗教の教典について概説し、その中でキリスト教の教典としての聖書を取り上げる。そして聖書の主要テーマである創造信仰、神の似姿としての人間の尊厳性、文化的使命、男女の一体性と相補的關係について解説する。

特定の教材を指定せず、最初の授業の時に参考文献を一括して紹介する。随時必要に応じて補助教材としてプリントを配布する。

【評価方法】 出席状況および期末試験の成績等を勘案して総合的に評価する。

【テキスト】 参考資料として、日本聖書協会の「聖書（新・旧）共同訳」

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
00005 00006	宗教論 [H・F] 宗教論 [E・B・J]	必	春学期 秋学期	各2	1	石橋 泰助
他の科目との関連						履修 対象学科

【講義内容】 人類が継承してきた文化には、人々の宗教心が深く関わっている。そのために、現代世界の社会や文化を理解するには宗教に関する理解が不可欠である。さらに、本学はキリスト教精神を土台とした人間教育に取り組んでいるが、キリスト教がもつ価値を正しく評価するためには宗教そのものの理解が必要である。そこで本講義では、宗教理解への入門として特定の宗教を取り上げたり、また宗教現象の分析を通じて、宗教がもつ文化的・社会的意味、宗教と人間観・世界観の関係について考察する。この講義を通じて宗教に対する理解を深めるための基礎的な枠組みを修得することを目指す。

【講義計画】

1. 宗教と信仰の意味 3回
2. 宗教の類型と現象 3回

最後の時間の30分間、宗教についての疑問、質問、意見を書く。

3. 世界の主要宗教の紹介 3回  
 4. キリスト教（旧約聖書、新約聖書）の紹介 3回  
 最後の時間の30分間、講義に対する評価を記す。

【評価方法】 筆記試験。プリント、ノート持ち込み可。  
 出席も重視。

【テキスト】 プリントを配布。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
00007 00008	宗教論 [H・F] 宗教論 [E・B・J]	必	春学期 秋学期	各2	1	五百旗頭博治
他の科目との関連						履修 対象学科

【講義内容】 人類が継承してきた文化には、人々の宗教心が深く関わっている。そのために、現代世界の社会や文化を理解するには宗教に関する理解が不可欠である。さらに、本学はキリスト教精神を土台とした人間教育に取り組んでいるが、キリスト教がもつ価値を正しく評価するためには宗教そのものの理解が必要である。そこで本講義では、宗教理解への入門として特定の宗教を取り上げたり、また宗教現象の分析を通じて、宗教がもつ文化的・社会的意味、宗教と人間観・世界観の関係について考察する。この講義を通じて宗教に対する理解を深めるための基礎的な枠組みを修得することを目指す。

【講義計画】 本講義はキリスト教理解の基礎となる幾つかの問題をめぐって行われる。一つには宗教と学問と哲学、文学、芸術についての基本的考察から、更にそれら相互の親近性と相異性についての理解を深める。第二にキリスト教と他宗教の問題に目を向ける。第三に何人かの哲学者と神学者の宗教観、神観を紹介する。各時間の始めには短い解説と共に宗教音楽（クラシック）の名曲のテープから1つの楽章を選んで聞かせる。（尚春学期には「復活祭」関係の音楽、秋学期には「クリスマス」関連の音楽が含まれる）

序論：自己紹介と本講義の学び方

本論：Ⅰ. 宗教と宗教学—宗教とは何か；宗教の種類；宗教に関連或は隣接する諸現象（宗教意識、超常現象、神秘現象、臨死体験等）；学問とは何か；宗教と宗教学・キリスト教学；宗教と哲学、芸術の共通点と相異点

Ⅱ. キリスト教と他宗教—「教会憲章」第2章；自力教と他力門の区別は有効か；道としての宗教

Ⅲ. 哲学者の神—Socrates、Platon、Aristoteles、西田幾多郎

Ⅳ. 神学者と神—Augustinus、Anselmus、Thomas Aq.

【評価方法】 主として期末の筆記試験（自筆のノートのみ参照可）による。それに加えて出席状況も評価する。

【テキスト】 テキストは用いない。「教会憲章」（第二章）はプリント配布する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
00009 00010	宗教論 [H・F] 宗教論 [E・B・J]	必	春学期 秋学期	各2	1	R. Szimpl
他の科目との関連						履修 対象学科

【講義内容】 人類が継承してきた文化には、人々の宗教心が深く関わっている。そのために、現代世界の社会や文化を理解するには宗教に関する理解が不可欠である。さらに、本学はキリスト教精神を土台とした人間教育に取り組んでいるが、キリスト教がもつ価値を正しく評価するためには宗教そのものの理解が必要である。そこで本講義では、宗教理解への入門として特定の宗教を取り上げたり、また宗教現象の分析を通じて、宗教がもつ文化的・社会的意味、宗教と人間観・世界観の関係について考察する。この講義を通じて宗教に対する理解を深めるための基礎的な枠組みを修得することを目指す。

【講義計画】 宗教意識の希薄化が進んでいる現在、キリスト教に基づいている南山大学の教育理念への理解を深めるため、宗教一般の意味と同時に、キリスト教という特定の宗教の意味について考える。具体的に、世界主要宗教を中心に、宗教の文化・社会上の意味、宗教と人間観・世界観との関係を考察する。そして、キリスト教という宗教の成立と発展をたどりながら、キリスト教の聖典である聖書やキリスト教の教えの主な

内容を明確にしてから、キリスト教会の組織と諸活動、キリスト教信者の信仰生活などの具体的な問題を取り上げて考えたいと思う。

- I まず、一般論として宗教とは何か、宗教の対象、宗教と文化・社会・思想とのかかわりについて考える。  
 II それから、本論として第一には、世界の主要宗教（仏教、ヒンズー教、ユダヤ教、イスラム教、キリスト教）を取り上げ、それぞれの間観と世界観を中心に、その文化的・社会的意味について考えていく。特に、キリスト教の成立と発展の歴史をたどりながら、キリスト教の主な教えと教会の組織と活動について考える。

【評価方法】 期末試験の結果と講義への参加姿勢と合わせて評価する。

【テキスト】 テキストや参考文献については、講義中に指示する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
00011 00012	宗教論 [H・F] 宗教論 [E・B・J]	必	春学期 秋学期	各2	1	W. Dunphy
他の科目との関連						履修対象学科

【講義内容】 人類が継承してきた文化には、人々の宗教心が深く関わっている。そのために、現代世界の社会や文化を理解するには宗教に関する理解が不可欠である。さらに、本学はキリスト教精神を土台とした人間教育に取り組んでいるが、キリスト教がもつ価値を正しく評価するためには宗教そのものの理解が必要である。そこで本講義では、宗教理解への入門として特定の宗教を取り上げたり、また宗教現象の分析を通じて、宗教がもつ文化的・社会的意味、宗教と人間観・世界観の関係について考察する。この講義を通じて宗教に対する理解を深めるための基礎的な枠組みを修得することを目指す。

【講義計画】 この授業では、次の6項目について考察していく予定である。

1. 宗教の機能と意味
2. 世界宗教の特色
3. 宗教と社会
4. 宗教と個人
5. 宗教の危険性
6. 「救い」とは

担当者による講義と並行して、学生諸君の積極的な意見を求める。特に、昨今ニュースで話題となっている宗教関連の諸問題について論じていきたい。

【評価方法】 出欠・試験およびレポート（レポート提出は試験前）。

【テキスト】 『聖書』（旧・新）

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
00013 00014	宗教論 [H・F] 宗教論 [E・B・J]	必	春学期 秋学期	各2	1	渡邊 学
他の科目との関連						履修対象学科

【講義内容】 人類が継承してきた文化には、人々の宗教心が深く関わっている。そのために、現代世界の社会や文化を理解するには宗教に関する理解が不可欠である。さらに、本学はキリスト教精神を土台とした人間教育に取り組んでいるが、キリスト教がもつ価値を正しく評価するためには宗教そのものの理解が必要である。そこで本講義では、宗教理解への入門として特定の宗教を取り上げたり、また宗教現象の分析を通じて、宗教がもつ文化的・社会的意味、宗教と人間観・世界観の関係について考察する。この講義を通じて宗教に対する理解を深めるための基礎的な枠組を修得することを目指す。

【講義計画】

1. 宗教とは何か——現代人の宗教意識と伝統宗教
2. 日本人と宗教
3. 仏教 I

4. 仏教Ⅱ
5. 神道
6. キリスト教Ⅰ
7. キリスト教Ⅱ
8. イスラム教Ⅰ
9. イスラム教Ⅱ
10. 近代社会と宗教
11. 現代社会と宗教
12. 総括

【評価方法】 講義の際の質疑応答や出席を考慮に入れるが、期末に行う筆記試験を最重要視する。

【テキスト】 幸日出男他著『宗教の歴史』（創元社）

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
00015 00016	宗教論 [H・F] 宗教論 [E・B・J]	必	春学期 秋学期	各2	1	奥山 倫明
他の科目 との関連						履修 対象学科

【講義内容】 人類が継承してきた文化には、人々の宗教心が深く関わっている。そのために、現代世界の社会や文化を理解するには宗教に関する理解が不可欠である。さらに、本学はキリスト教精神を土台とした人間教育に取り組んでいるが、キリスト教がもつ価値を正しく評価するためには宗教そのものの理解が必要である。そこで本講義では、宗教理解への入門として特定の宗教を取り上げたり、また宗教現象の分析を通じて、宗教がもつ文化的・社会的意味、宗教と人間観・世界観の関係について考察する。この講義を通じて宗教に対する理解を深めるための基礎的な枠組みを修得することを目指す。

【講義計画】 1、 宗教へのアプローチ

- (1)宗教学とは何か
- (2)宗教の捉え方
- (3)宗教の構成要素
- (4)生活と宗教とのかかわり

2、 日本人と宗教

- (1)日本人の宗教生活の現状
- (2)日本人の宗教生活の歴史

3、 歴史における宗教の諸相

- (1)神話と儀礼の世界
- (2)神秘主義
- (3)情報社会と神々

【評価方法】 出席、レポート、試験による総合評価

【テキスト】 参考文献

- 脇本平也『宗教学入門』講談社学術文庫、1997年  
 石井研士『データブック 現代日本人の宗教』新曜社、1997年  
 阿満利磨『日本人はなぜ無宗教なのか』筑摩書房、ちくま新書、1996年  
 小林道憲『宗教とはなにか——古代世界の神話と儀礼から』日本放送出版協会、NHK ブックス、1997年  
 山折哲雄『神秘体験』講談社現代新書、1989年  
 生駒孝彰『インターネットの中の神々——21世紀の宗教空間』平凡社新書、1999年

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
00017 00018	宗教論 [H・F] 宗教論 [E・B・J]	必	春学期 秋学期	各2	1	山田 望
他の科目 との関連						履修 対象学科

**【講義内容】** 人類が継承してきた文化には、人々の宗教心が深く関わっている。そのために、現代世界の社会や文化を理解するには宗教に関する理解が不可欠である。さらに、本学はキリスト教精神を土台とした人間教育に取り組んでいるが、キリスト教がもつ価値を正しく評価するためには宗教そのものの理解が必要である。そこで本講義では、宗教理解への入門として特定の宗教を取り上げたり、また宗教現象の分析を通じて、宗教がもつ文化的・社会的意味、宗教と人間観・世界観の関係について考察する。この講義を通じて宗教に対する理解を深めるための基礎的な枠組みを修得することを目指す。

**【講義計画】** この講義では、キリスト教を含めて歴史上に現われた幾つかの宗教を取りあげ、各々の宗教が成立、発展してきた歴史的、社会的、文化的背景に触れながら、それぞれの宗教の持つ具体的内容や特質のみならず、さまざまな諸問題をも明らかにしたい。さらに、これらの検証を通して、歴史的、社会的制約を受けながらも、民衆の心と生活に宗教が密接に関わってきたその根拠を探りたい。講義全体を通して、現代に生きるわれわれに求められる宗教性や宗教の普遍的価値とはどのようなものであるのかを共に考えていく。

1. アニミズム、シャーマニズム、神道
2. ギリシャ・ローマの神々と皇帝崇拜
3. ユダヤ教と旧約聖書
4. ユダヤ教とイスラエル民族
5. イエスと「神の国」
6. 初代教会の成立と発展
7. キリスト教とローマ帝国
8. 中世・近代ヨーロッパとキリスト教
9. 仏教の成立と発展
10. 儒教思想と日本の仏教
11. イスラム教とイスラム社会
12. 新宗教の問題点と日本の宗教の可能性

**【評価方法】** 出席状況とレポートによる。

**【テキスト】** その都度プリント等で資料を配布する。

**【その他】** 講義は、さまざまな文献資料のみならず、ビデオテープやオーディオテープ、スライド等の視聴覚資料をも併用しながら進められる。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
00019	宗教論 [H・F]	必	春学期	各2	1	A.Volpe
00020	宗教論 [E・B・J]		秋学期			
他の科目との関連						履修対象学科

**【講義内容】** 人類が継承してきた文化には、人々の宗教心が深く関わっている。そのために、現代世界の社会や文化を理解するには宗教に関する理解が不可欠である。さらに、本学はキリスト教精神を土台とした人間教育に取り組んでいるが、キリスト教がもつ価値を正しく評価するためには宗教そのものの理解が必要である。そこで本講義では、宗教理解への入門として特定の宗教を取り上げたり、また宗教現象の分析を通じて、宗教がもつ文化的・社会的意味、宗教と人間観・世界観の関係について考察する。この講義を通じて宗教に対する理解を深めるための基礎的な枠組みを修得することを目指す。

**【講義計画】** 人類の歴史において宗教はいつも存在していたことは明らかである。宗教は人間の思考力と共に発生したと言える。なぜ大自然の中で人間だけが「神への直感」を持っているのであろうか。それは空想において完璧で究極的な存在へのあこがれであろうか。あるいは存在している神から直接にいただいた「インスピレーション」であろうか。本講義は神と人類との最初のコミュニケーションの試み（自然的宗教）からキリスト教の啓示まで調べながら、キリスト教における「啓示」の独創性を紹介する。

- 1回 人類の共通の宗教心
- 2回 理性と信仰
- 3回 進化論と創造論
- 4回 なぜ宗教は発生したか。
- 5回 宗教の共通点
- 6回 自然的宗教における天啓と、聖書における創世記の天地創造
- 7回 宗教の限界
- 8回 神からのコミュニケーションは可能であろうか。
- 9回 歴史における聖人と預言者

- 10回 歴史上のイエス・キリストの紹介
- 11回 イエスのアイデンティティー
- 12回 イエスは神か

【評価方法】 定期的な小レポート、試験の成績などを参考にしてつける。

【テキスト】 G.リヴァ『イエスを知るために』（ドン・ボスコ社）  
A.ヴォルペ「短大における比較宗教論の論理と実践」『名古屋聖霊短期大学紀要』  
第17号 1997

# 「キリスト教概論」

この講義はカトリック大学である南山で学ぶ学生が、人間の文化的活動の根底にある宗教的人格性を、キリスト教の観点から学ぶ機会となるように構成される。従って、イエス・キリストの中心的な教えが新約聖書に基づいて説明される。しかし、具体的な講義の内容は、各担当者の特徴を発揮したものとなる。

2年次、キリスト教学科1年次 2単位 必修 90分 半年間の講義。  
 経済、経営、法の3学部は春学期に、文学、外国語の2学部は秋学期に履修する。  
 登録方法：第3希望まで予備登録する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
00101 00102	キリスト教概論 [再]	必	春学期 秋学期	各2	3・4	江川 憲
他の科目との関連						履修対象学科

【副題】 福音としてのイエスの教えと活動

【講義内容】 新約聖書の中で証言されているイエス・キリストの福音を旧約聖書の背景から捉え直し、その起源と展開を解明した後、現代人にとっての意味について考察する。

【講義計画】 序論：聖書とは何か？  
 本論：1. 「福音」とは何か？  
           2. 「神の国」とは何か？  
           3. 「イエス・キリスト」とは何か？  
           4. 「十字架」とは何か？  
 結論：現代人にとっての意味

【評価方法】 レポート、講義への参加姿勢および出席等を総合的に評価する。

【テキスト】 新共同訳『聖書』（旧約聖書統編つき）

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
00103	キリスト教概論 [HC]	必	秋学期	2	1	H. J. Marx
他の科目との関連	神学全科目履修のための準備科目。					履修対象学科 キリスト教

【講義内容】 この講義では、南山大学の教育、研究の基礎をなすキリスト教的ヒューマニズムを身につけるために、キリスト教の歴史やその中心的な教えを旧約聖書・新約聖書に基づいて考察する。イエス・キリストの人となりやその教えを理解することにより、人間の文化的活動の根底にある宗教的ヒューマニズムを学ぶ機会を提供する。

【講義計画】 キリストとはナザレのイエスという歴史的人物を指す。その人の思想、活動、運命がなぜキリスト教という宗教を引き起こしたのかを究明する。

- (1) パレスチナ古代史の概略   i) 宗教と政治の絡み合い  
                                   ii) ハスモン家の時代

- iii) イエスと初代キリスト教の時代
- (2) 信仰と歴史
  - i) 福音書の研究史
  - ii) イエスの生涯
- (3) イエスの福音
  - i) 愛の掟
  - ii) 神の国
  - iii) 罪人も歓迎
  - iv) 大変動の前兆
- (4) 神から遣わされた人
  - i) 終末の預言者
  - ii) 人の子
  - iii) 神の子
- (5) イエスの死と復活
  - i) 歴史の謎
  - ii) 復活伝承の核心
  - iii) キリスト論の誕生

【評価方法】 筆記試験、出席、授業態度等から総合的に評価する。

【テキスト】 講義録プリント（講義終了後配布）

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
00104	キリスト教概論 [経・営・法]	必	春学期	各2	2	枝村 茂
00105	キリスト教概論 [文・外]		秋学期			
他の科目との関連						履修対象学科

【副題】 イスラエル民族宗教からキリスト教世界宗教へ

【講義内容】 キリスト教とは、ナザレのイエスという歴史上の一人物を神の子、全人類の救い主、キリストと信仰告白する宗教である。したがってこのイエスについて知ることがキリスト教を理解する上で不可欠である。なぜこのイエスがキリストと呼ばれるに至ったのか、彼は何をしたのか、その身の上になにが起こったのかを調べてみる必要がある。幸い彼の死後100年以内に成立した新約聖書をとおしてイエスの人物や言動についてかなりの資料を得ることができる。そこに描かれているイエスの姿は、信仰の目をとおした像であり、歴史的でない要素が付加されている可能性は否定できない。しかしその信仰の目はイエスという歴史的人物の存在の本質にふれ、そこから彼の姿をとらえ描いているといえよう。福音書を主資料にナザレのイエスの「神の国」運動の真意を解明し、その結果生まれた弟子たちの復活信仰、キリスト教会の成立、その後の発展、遭遇した困難に言及しながら、キリスト教の生命線を浮彫りにする。

- 【講義計画】
1. イエスの「神の国」運動のユダヤ的背景
  2. イスラエル史概説
  3. イエスによる「神の国」運動の刷新性
  4. イエスによる「たとえ話」の救済的意義
  5. イエスの贖罪的使命感
  6. イエスとその弟子たち
  7. イエスの受難・死
  8. 復活信仰とキリスト教の成立
  9. ユダヤ教からキリスト教の分離・独立
  10. キリスト教とヘレニズム文化との出会い
  11. 異端の発生と正統信仰の確立
  12. 世界宗教への歩み
  13. キリスト教と現代

【評価方法】 出席状況および期末試験の成績等を勘案して評価する。

【テキスト】 『聖書』（旧・新）、プリント

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
00106	キリスト教概論 [経・営・法]	必	春学期	2	2	岡崎 才蔵
他の科目との関連						履修 対象学科

【副題】 新約聖書を読む。

【講義内容】 講義の目標は、聖書に親しみ、キリスト教への理解を深めてもらうことである。キリスト教の歴史や聖書の成立に関する予備的知識を講義した後、キリストの教えを紹介し、更にその発展としてのキリスト教思想を概説する。

【講義計画】

1. 旧約聖書の成立
2. 新約聖書の成立
3. キリストの教え
4. キリスト教と日本
5. ローマ・カトリック教会

3のテーマを除いて、各テーマを二回から三回の講義で取り扱う。

【評価方法】 出席状況および学期末での筆記試験の結果とを総合して成績をつける。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
00107	キリスト教概論 [神・経・営・法]	必	春学期	2	2	熊木 建郎
他の科目との関連						履修 対象学科

【副題】 古代イスラエル史

【講義内容】 キリスト教の正典としての『聖書』、特にその『旧約』の部のより深い理解のために、「旧約聖書入門」では扱わなかった、古代イスラエルの歴史、その思想史的特徴などを把握するように努める。

【講義計画】 上記の目標に向けて、木田献一著『旧約聖書概説』を副読本として用いながら、次のような題目に従って論ずる。

- I. イスラエル民族の基礎
- II. 士師時代の生活
- III. 王国の成立とその課題
- IV. 預言者と王国
- V. ユダ王国の滅亡と捕囚
- VI. ユダヤ教団の成立
- VII. ヘレニズムとユダヤ教

【評価方法】 『旧約聖書』の指定箇所と副読本を各自が読んでおくことを前提とし、授業内容を含めて前期末に筆記試験を行なう。

【テキスト】 『聖書』と木田献一著『旧約聖書概説』（リトン社）

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
00108 00109	キリスト教概論 [経・営・法] キリスト教概論 [文・外]	必	春学期 秋学期	各2	2	五百旗頭博治
他の科目との関連						履修 対象学科

【副題】 山上の説教の研究

【講義内容】 キリストの山上の説教にはキリストの中心的な教えの多くが盛り込まれている。その教えと問題点を正しく理解するため古典としての聖書の今日的取扱い方やキリストのアップールの現代的意義などにも留意した上で取り上げてゆきたい。必要に応じてアウグスチヌスやトマス・アクィナスなどの神学者の解釈に触れたり自然法思想に關説したりすることがある。尚、各時間の始めには短い解説と共に宗教音楽（クラシック）の名曲のテープから1楽章を選んで聴かせる。（春学期には復活祭の音楽、秋学期にはクリスマスの音楽が含まれる）

【講義計画】 序説：1. 聖書入門  
2. 旧約のメシア思想と新約のキリスト論  
本論：1. 心の貧しさ（マタイ5：3）は美德たりうるか？  
2. キリストによる十戒の解釈の新しさは何か？  
3. 旧約の愛の掟とキリストの愛の教え、黄金律とは何か？  
4. 他人への施しはどの程度まですべきなのか？—財産の私有と共有の問題、自然法との関連について  
5. 主の祈り  
6. その他

【評価方法】 主として筆記試験（自筆のノートのみ参照可）による。出席状況もそれに加えて評価する。

【テキスト】 新共同訳聖書、特に新約の部。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
00110	キリスト教概論 [経・営・法]	必	春学期	各2	2	久松 英二
00111	キリスト教概論 [文・外]		秋学期			
他の科目との関連						履修対象学科

【副題】 聖書への招待

【講義内容】 本講では、聖書の思想の一番中心的な部分、聖書の本質的な内容を形づくっている骨の骨に当たる部分を解説し、「聖書とはこういう本か」というだいたいのイメージをつかんでもらうことを目的とする。聖書は確かにキリスト教の経典であり、信徒はそれを読んで自分なりに消化し、そのメッセージを生活に生かすことが要求されているが、一方で聖書は信徒でない人々にも人生に指針を与えるような思想や発想をふんだんに含んでいる。だからといって、初めから何の知識もなくいきなり飛び込んでも、まずは理解に苦しむだけで、最初の数行で投げ出してしまふのは必至である。本講は、聖書をひとつじっくり読んでみようという積極的な学生に、途中で投げ出さないように、理解のためのガイドラインを与えようとするものである。

【講義計画】 1. 聖書の舞台であるカナン（現パレスティナ）の地理  
2. アブラハムから現代までのイスラエルの歴史  
3. 「聖書」という言葉の由来  
4. 「旧約」すなわち「旧い契約」と「新約」すなわち「新しい契約」の違い  
5. 旧約聖書と新約聖書の「啓示」思想の違い  
6. 旧約聖書と新約聖書の「救い」の概念の違い  
7. 「モーゼ五書」の四つの資料  
8. 「ノアの方舟」（洪水物語）の神話成立の秘密  
9. 「バベルの塔」神話の歴史的背景  
10. アブラハムからヨセフまでの人間物語の歴史的背景  
11. 福音書  
12. イエスの教えの中心

【評価方法】 筆記試験、出席重視（座席指定）

【テキスト】 聖書（旧約・新約）、プリント

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
00112 00113	キリスト教概論 [経・営・法] キリスト教概論 [文・外]	必	春学期 秋学期	各2	2	W. Dunphy
他の科目との関連						履修対象学科

- 【副題】 聖書の読み方
- 【講義内容】 旧約・新約聖書と現代の諸問題。
- 【講義計画】 月一回小テスト
- 【評価方法】 出席、レポート、試験。
- 【テキスト】 『聖書』(旧・新)

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
00114 00115	キリスト教概論 [経・営・法] キリスト教概論 [文・外]	必	春学期 秋学期	各2	2	吉田 聖
他の科目との関連						履修対象学科

- 【副題】 キリスト教的ヒューマニズム、人間の生き方、価値観等について
- 【講義内容】
1. 南山大学の教育理念とキリスト教精神
  2. 人間の生き方 (個性や人格を磨くこと他)
  3. 価値観 (生老病死、いのち、愛他)
  4. キリスト教的ヒューマニズム (キリストの教えを中心に)
- 【講義計画】
1. きょうのことば。聖書の中から、メッセージとして1～2節選んで…。
  2. きょうのテーマ。毎回、資料を使って行う。『物より心の時代』
  3. きょうの音楽。宗教音楽 (グレゴリオ聖歌) ～Healing Music他。
  4. Reaction Paper。参加者は、この用紙を使って、自分の感想や意見、質問等を書いて提出する。
- 【評価方法】
1. 出席状況。Reaction Paperの提出によって出欠のチェックをする。
  2. 課題レポート (3～4回)。
  3. 筆記試験。
- 【テキスト】 吉田 聖『物より心の時代』南窓社
- 【その他】 聖書の箇所は必要に応じてコピーの形で配布する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
00116 00117	キリスト教概論 [経・営・法] キリスト教概論 [文・外]	必	春学期 秋学期	各2	2	J. Schubert
他の科目との関連						履修対象学科

- 【講義内容】 キリストのメッセージと業によって変革されつつある現代社会 (5回ぐらい講義の内容をスライドやビデオをもって補助する)
- 【講義計画】
1. 新約聖書の成立及び概要説明
  2. ビデオ鑑賞によるイエズス・キリストの生涯の説明
  3. 旧約聖書と新約聖書の関連

4. 奇跡物語の意義説明
5. イエズス・キリストのたとえ話による教え方
6. 旧約の十戒と愛の倫理の比較
7. キリストの教えの特徴
8. 受難と復活の普遍的意義
9. 主の祈りの教義的内容
10. イエズスの誕生物語とキリストに関する先在思想
11. カトリックとプロテスタントの主な違い

【評価方法】 学期末テスト及び3ないし4回の宿題が採点の対象となる。

【テキスト】 新約聖書（新共同訳）

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
00118 00119	キリスト教概論 [経・営・法] キリスト教概論 [文・外]	必	春学期 秋学期	各2	2	青山 玄
他の科目との関連						履修 対象学科

【副題】 現代人とキリスト教

【講義内容】 本講義は、20世紀のカトリック教会が、その強力な世界的組織を十分に活用しつつ、あらゆる努力を傾けたにもかかわらず、その高貴な伝統と成果が、強大な現代社会と現代文明の潮流によって次々と崩され、押し流される現実の直視と反省から、キリスト教本来の姿を改めて究明し、その日本的展開による現代化の道を模索することを、意図するものである。

【講義計画】 講義は、次の順序で進められる：  
 (1)現代社会とその根本的特徴  
 (2)現代社会の動向に対するカトリック教会の対応  
 ——歴代ローマ教皇の施策を中心として——  
 (3)聖書から伺い知られるキリスト道と新約の教会像  
 (4)キリスト教の西洋的發展  
 (5)西洋文化と日本文化の基本的相違点

【評価方法】 採点は学期末の筆記試験によってなされるが、出席日数と受講態度も重視する。

【テキスト】 教材プリントは講義の度毎に出席受講者に配布される。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
00120 00121	キリスト教概論 [経・営・法] キリスト教概論 [文・外]	必	春学期 秋学期	各2	2	寺尾總一郎
他の科目との関連						履修 対象学科

【講義内容】

1. 新約聖書、特に各福音書の編集過程について、現在の通説を概説。
2. イエスの教えと行動の原理やパターンについて、各福音書を比較検討。
3. イエス・キリストの教えと行動を探り、なぜ、彼が神であると信じられるようになったのかを考える。
4. イエスの時代に問題にならなかったような現代の問題（たとえば、生命倫理、社会制度、戦争と平和）に現代のキリスト教（特にカトリック）はどのように対応しているか概説する。

【講義計画】

1. 講師が人々との出会いを通して体験してきた人生模様を紹介、その中で、もしその場にキリストがいたら、このように言動するのではないかということも思い描きながら、時代が変わっても変わることのない人間の心の問題を探究する。
2. 人間の誕生から死までの間、人間は何のために生き、何に向かって人生を歩んでいけばよいのかを考えるヒントになりそうな話題をできるだけ多く盛り込む。
3. 適宜、ビデオも教材として利用。

【評価方法】 与えられた課題についてレポートを提出していただく（2回）。

【テキスト】 『聖書』（日本聖書協会刊、新共同訳、旧約聖書統編付）

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
00400 00401	キリスト教思想Ⅱ [再]	必	春学期 秋学期	各2	4	久松 英二
他の科目 との関連						履修 対象学科 全

【講義内容】 共通教育科目00543・00544「人間の尊厳（理論）」科目（聖書の人間像）を参照。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
00402 00403	キリスト教思想Ⅱ [再]	必	春学期 秋学期	各2	4	長倉 久子
他の科目 との関連						履修 対象学科 全

【講義内容】 共通教育科目00546・00547「人間の尊厳（理論）」科目（生と幸福）を参照。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
00404 00405	キリスト教思想Ⅱ [再]	必	春学期 秋学期	各2	4	鳥巢 義文
他の科目 との関連						履修 対象学科 全

【講義内容】 共通教育科目00548・00549「人間の尊厳（理論）」科目（人間学と神学）を参照。

# 共通教育科目

## B. 「人間の尊厳」科目

# 「人間の尊厳」科目

卒業のためには、「人間の尊厳（理論）」科目から1科目2単位及び「人間の尊厳（状況）」科目から1科目2単位計4単位履修しなければならない。  
登録方法：「理論」「状況」それぞれについて第3希望まで予備登録する。

## 【講義内容】

この科目は、南山大学で学ぶ学生が、本学のモットーである「人間の尊厳のために」の意味を理解し、修得することによって、現実の社会の中で「人間の尊厳のために」を活かすことをのぞんで開講するものである。

## 「人間の尊厳」科目（理論） 講義概要

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
00541	古代・中世における人間論	選必	春学期	2	2~4	蒔苗 暢夫	
他の科目との関連						履修対象学科	全

【講義内容】 「愛」の問題を、古代・中世の思想を手掛かりに考察する。

【講義計画】 以下の順にしたがって考察する。  
1. 人間の尊厳について  
2. 日本語の愛、および愛と訳されることば  
3. プラトンにおける愛  
4. アリストテレスにおける愛  
5. トマス・アクィナスにおける愛

【評価方法】 出席状況と筆記試験の成績を総合的に評価する。

【テキスト】 プラトン『饗宴』（新潮文庫）、アリストテレス『ニコマコス倫理学』（岩波文庫）、その他適宜プリント配布

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
00542	古代・中世における人間論	選必	秋学期	2	2~4	蒔苗 暢夫	
他の科目との関連						履修対象学科	全

【講義内容】 今日我々が抱えている問題を、古代・中世の思想を手掛かりに考察する。

【講義計画】 以下の順にしたがって考察する。  
1. 人間の尊厳について  
2. 愛について  
3. 人間の卓越性について  
4. 技術と賢慮について

5. 幸福について

【評価方法】 出席状況と筆記試験の成果を総合的に評価する。

【テキスト】 プラトン『饗宴』、その他アリストテレス、トマス・アクィナスの著作を適宜配布する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
00543 00544	聖書の人間像	選必	春学期 秋学期	各2	2~4	久松 英二
他の科目との関連						履修対象学科 全

【講義内容】 キリスト教の経典である聖書は、抹香臭く、時代遅れの「ありがたい」説教の書ではない。そこには醜さと悲惨、美と高貴一切を含めた生々しい人間の性（さが）をえぐりだすドラマが展開しているのである。本講では、聖書を単なるキリスト教の「教化」書としてではなく、今を生きる我々の心に問いかけ、訴える現代性と魅力をもった人間ドラマの書として扱い、そこに見られる人間像を浮き彫りにしたい。

【講義計画】

1. 『聖書』に関する一般的情報の提供
2. 『旧約聖書』に登場する主な人物を取り上げ、そこに見られる人間理解を探る。
3. 『新約聖書』に登場する主な人物を取り上げ、そこに見られる人間理解を探る。
4. 総括

【評価方法】 筆記試験の結果および出席状況から評価する。(座席指定とする)

【テキスト】 『聖書』(できれば、新共同訳の旧約と新約がセットになったもの)

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
00545	イスラーム・スペイン思想における人間観	選必	春学期	2	2~4	木下 登
他の科目との関連						履修対象学科 全

【講義内容】 近年我が国においてもイスラーム世界への関心がとみに高まってきている。しかしその主眼は中東諸国に注がれており、8世紀以降800年にわたりイスラーム世界と西欧世界の接点として重要な役割を果たしたイスラーム・スペインに関しては未だ情報は限られている。本講では、イブン・マサーラを始めとして、アヴェロエスに至るイスラームの思想家たちを取りあげ、イスラームと西欧両世界の「掛け橋」としてイスラーム・スペインが果たした役割の一端を解明することを目的とする。

【講義計画】

1. イスラーム世界の拡大
2. イブン・マサーラ (10c.)
3. イブン・ハズム・デ・コルドバ (11c.)
4. イブン・トゥファイル (12c.)
5. アヴェロエス (12c.)
6. イブン・アラビー (12c.)
7. イベリア半島における翻訳業
8. 信仰と理性について

【評価方法】 レポートと筆記試験

【テキスト】 井筒俊彦『イスラーム思想史』(中公文庫)、M.ワット『イスラーム・スペイン哲学』(岩波書店)

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
00546 00547	生と幸福	選必	春学期	各2	2～4	長倉 久子	
他の科目との関連						履修対象学科	全

【講義内容】 主体的に自己の生を形づくっていくことは、人間の特権であるとともに、また各人に課せられた課題である。主体的に生きていくためには、主体的に考え、選択し行為していかなければならない。価値観が多様化し、商業主義や消費主義が大きな影響をもつ社会で、それは決してやさしいことではない。人間らしさとは何か、価値とは何かなどの問題を考えてみよう。

【講義計画】 なぜ人間は「なぜ」という問いを出すのか、人間の行為とは何か、人間的行為の目指すものは何か、幸福とは何か、人間らしさとは何か、などの問題をめぐって、講義とグループ・ディスカッション、そしてディスカッションの成果の分ち合い、という仕方です。授業を進める予定。  
受講生には、自分で考え、積極的にディスカッションに参加し、成果を皆で分ち合うことが求められる。

【評価方法】 授業への参加度（出席やディスカッションへの参加）と筆記試験。  
また、レポートを課す場合もある。

【テキスト】 随時参考書を紹介する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
00548 00549	人間学と神学	選必	春学期 秋学期	各2	2～4	鳥巢 義文	
他の科目との関連						履修対象学科	全

【講義内容】 人間の尊厳について語ることは、さまざまなアプローチによって可能であるが、本講義では、宗教概論やキリスト教概論の内容を基礎にしつつ、キリスト教神学の立場から人間存在の有する尊厳の意味について考えていく。

ところで、神学というと、人間とは無縁の事柄についての思索であるかのような印象を受け易いが、実際には、我々が避けては通れないような人生の問題、また我々の人生を活性化する希望の根拠についての説明が中心課題となっている。

本講義では、例えば、我々のペットの犬や猫は「私は何ものか」とは自問しないが、人間はそれをする。「我思う、故に、我在り。」しかし、そう思っている私がまた謎になる。あるいは、人間の「共同体性」はどこから来るのか。孤立した「我と汝」を超える思想とは何か。我々の「召命」また「使命」とは…等々のテーマを扱う。

【講義計画】 今年度は、(1)「人」という日本語、(2) 生物学的人間理解、(3) 人間性の理念の探求をそれぞれ概観した後、更に(4) 人間理解のための神学的モデルを検討することによって、人間の有する尊厳性、また、その根拠について理解を深めていく。

【評価方法】 講義への参加姿勢、学期末試験などによる。

【テキスト】 講義の中で示唆する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
00550	歴史・文化・人間 ——歴史理論と歴史像の見直しに向けて——	選必	春学期	2	2～4	加藤 泰史	
他の科目との関連						履修対象学科	全

【講義内容】 最近の（網野善彦を中心とする）日本中世研究の諸成果によって、従来の「常識的」な日本史像は大幅な修正を迫られており、それらはまさに「日本文化」の見方についても大きな影響を与えつつある。本講義

では、網野善彦の日本史研究などを紹介しながら、それらが提起する諸問題から、さらに「歴史とは何か」および「歴史の方法論」といった問題にアプローチする。

- 【講義計画】
- (1) 「常識的」な日本史像の諸問題
  - (2) 網野善彦の日本中世史研究——『無縁・公界・楽』・『日本の歴史をよみなおす』など
  - (3) 網野善彦の「日本文化論」——『東と西の語る日本の歴史』など
  - (4) 「鏡」としての歴史
  - (5) 歴史に対する責任の問題
  - (6) 「歴史の方法論」あるいは「歴史と人間」

【評価方法】 講義中の聴講態度・質疑応答・筆記試験などから総合的に評価する。

【テキスト】 テキストは特に使用しないが、以下の参考文献を指示しておく。  
 網野善彦『無縁・公界・楽』（平凡社）、網野善彦『東と西の語る日本の歴史』（特に第15章）（そしえて）、ハーバマス／ノルテ他『過ぎ去ろうとしない過去』（人文書院）、金子晴勇編『人間学』（特に第Ⅱ部第7章）（創文社）

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
00552	自然法論における人間の尊厳	選必	春学期	2	2~4	高橋 広次	
他の科目との関連						履修対象学科	全

【講義内容】 「人間の尊厳は不可侵であり、これを尊重することは、すべての国家権力の義務である」は、ドイツ憲法の第一条の文言である。しかし日本国憲法では「個人の尊重」の規定はあるが、果たして両者は同一のものであろうか？もしそうでないのなら、そこには何か異なった思想的な背景があるのかもしれない。本講義は、「人間の尊厳」と「国家権力」との関係概念を概念的かつ歴史的に整理してゆくなかで、前者の深い形而上学的な意義にまで遡って明らかにする。

- 【講義計画】
- (1) 戦後における「人間の尊厳」の実定法化
  - (2) 「人間の尊厳」の法的含意—基本的人権の要素
  - (3) 「人間の尊厳」の政治思想的含意
  - (4) 「人間の尊厳」を補完するもの—「人間の責任」

【評価方法】 成績の評価に際しては、定期試験の結果を中心にする。ときおり提出を求められるレポートも評価の対象に加える。なお、毎回の講義の出席を特に重視する。

【テキスト】 レジュメを配布する。なお参考書としてホセ＝ヨンバルト著『人間の尊厳と国家の権力』（成文堂）を勧める。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
00553	思想史における人間の尊厳	選必	秋学期	2	2~4	高橋 広次	
他の科目との関連						履修対象学科	全

【講義内容】 「人間の尊厳」は各時代においてその捉え方を異にしている。また、ある時期にはこれを否定するような見方もあり、今日に至っている。後期は「人間の尊厳」の理解を、古代ローマ時代から中世キリスト教期を経、近世ルネッサンス期・近代啓蒙期・近代自然科学隆盛期を通し、戦後の再生そして世紀末の今日までその軌跡を追求する。

- 【講義計画】
- (1) 古代ローマの観念——「政治的」意味
  - (2) キリスト教の観念——Imago Deiということ
  - (3) 近世近代の人間中心主義的態度
  - (4) 第二次世界大戦後の再生と世紀末での変貌について

【評価方法】 成績の評価に際しては、定期試験の結果を中心にする。ときおり提出を求められるレポートも評価の対象

に加える。なお、毎回の講義の出席を特に重視する。

【テキスト】 レジュメを配布する。なお、参考書としてホセ＝ヨンバルト著『人間の尊厳と国家の権力』（成文堂）を勧める。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
00554	自然法論的人間論	選必	春学期	2	2～4	山田 秀	
他の科目との関連						履修対象学科	全

【講義内容】 林竹二博士の人と思想と行動を扱う。  
 林竹二博士（1906～1985年）の全存在を賭けた教育への取り組みは、我々に教育の問題は勿論のこと、多くのことを、それもいつの間にか我々が意識外に追い出してしまっている貴重なものを、思い出させてくれるように思われる。本講義では、その多くの著書の中から、晩年に著わされた二冊を取り上げて、人間における教育の問題、生き方の問題を考えていきたい。それによって自然法論的人間論の試みとする。尚、今年度は村井実教授の教育思想をも取り上げてまとまった考察を行いたい。

【講義計画】 ほぼ以下の順に考察する予定〔但し、数字は回数を必ずしも指示しない。〕

1. 林竹二博士の生涯と実績
2. 角田桂嶽を通じてのキリスト教との出会い
3. テイラー『ソクラテス』の翻訳と復員軍人の為の講習会
4. 東北大学教育学部自治侵害事件
5. 宮城教育人学学長時代の大学封鎖事件と制度改革
6. 授業の実践から授業の巡礼へ（教育制度批判を含む。）
7. 教育とは何か。一通常理解、概念的理解、ソクラテス的理解、林竹二博士最晩年の理解
8. ソクラテス、田中正造、森有礼、新井奥達の研究
9. 村井実教授の教育思想
10. 村井実教授、林竹二博士両ソクラテス学徒から学ぶもの

【評価方法】 筆記試験による。

【テキスト】 林竹二『教育亡国』（ちくま学芸文庫）筑摩書房  
 林竹二『問いつづけて、教育とは何だろうか』径書房

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
00555	東洋における自然法への直覚	選必	秋学期	2	2～4	山田 秀	
他の科目との関連						履修対象学科	全

【副題】 孟子と王陽明と伝統的自然法思想

【講義内容】 現在の我が国では儒教思想に対する関心は一般的に低いのではなからうか。私自身からしてそうであった。しかし、例えば『孟子』や『伝習録』を虚心に読むとき、そこには我々一人一人の心に共感を喚起せずにはおかないものが盛られていることに気づく。それをここでは一応「自然法的なるもの」と呼んでおこう。人間がもし自然法的存在であるならば、その最内奥のものに触れる思想に出会ったとき、人は何がしかの感動を覚えるのではなからうか。こうした問題意識を以て、主として『孟子』を、後には『伝習録』を共に読んでいきたい。

【講義計画】 ほぼ、以下の順に考察する予定。

1. 孟子の生涯と思想
2. 王道論
3. 天命思想——暴君放伐論
4. 性善説と四端説
5. 天爵人爵、靈魂失踪論、学問論
6. 寡欲と修養論

7. 良能良知論
8. 王陽明の生涯と思想
9. 知行合一説
10. 致良知説
11. 抜本塞源論
12. 孟子、王陽明と自然法

【評価方法】 筆記試験による。

【テキスト】 渡辺卓『孟子』（明德出版社）。尚、陽明に関しては、プリントを作成して配布する予定。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単 位	年 次	担 当 者	
00556	合理的思考のすすめ	選必	春学期	2	2～4	小池 英光	
他の科目との関連						履 修 対 象 学 科	全

【講義内容】 「およそ人間を人間以外の感覚できるものの上に置いて、あらゆる点で優れさせ、支配させるものは知性であるから、知性はまさにその尊さからいつて絶対確実に研究に値する主題である」と17世紀の哲学者ロックは語っている。知性は何時の時代でも人間の尊厳の根拠であった。しかし正しく使えない知性は知性の名に値しないであろう。疲れ果てるとき、ともすれば人々は幻を愛し、道を逸れてゆく誘惑に駆られる。こうした思考の陥穽を指摘し、合理的思考の方法をいくつか学ぶことが本講義の狙いである。自明で常識的とも思われた事柄の底に潜む論理と問題場面を明らかにしてみたい。ここでは人間の尊厳について直接に論ずるのではなく、尊厳に値する知性を創ることをめざしたい。

- 【講義計画】
1. 人間の尊厳と知性：知性を惑わすもの
  2. 懐疑の意味と二つの懐疑論
  3. 分析的知識と総合的知識
  4. 信念・知識・信仰
  5. 真と偽、意味と無意味
  6. 言葉と物の世界との関係
  7. 因果と因果の及ぶ世界
  8. 決定論と人間的行為
  9. 人格の同一性と責任の主体
  10. 二つの思考様式：啓蒙主義とロマン主義
  11. 理性と感情：人間的価値の二源泉
  12. 自然と反自然：問ひかけの倫理学に向けて

【評価方法】 学期末の筆記試験を中心に評価するが、出席点も重視する。なお、積極的に質疑に参加した場合には平常点として評価する。

【テキスト】 テキストは使わない。その代わりに、授業ごとに講義概要を配布する予定。関連する文献はその都度指示する。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単 位	年 次	担 当 者	
00558	個と世間	選必	春学期	2	2～4	大森 正樹	
他の科目との関連						履 修 対 象 学 科	全

【講義内容】 世界が狭くなり、人々の交流が盛んになるにつれ、日本人の思考傾向が問われるようになった。その時、日本人には個がないと言われることが多いが、その「個」とは何なのだろうか。そして日本人は何を基盤として行動し、人間関係を結んでいるのか。そうした問題について考察してみたい。

- 【講義計画】
- 上述の目的に沿って、  
 (1)西洋的「個」の概念を探る  
 ヘブライ的観念より

- キリスト教的観点より  
 (2)西洋的「個」概念の展開と発展  
 (3)西洋的「個」の現状  
 (4)日本の心性と「世間」の問題  
 (5)日本的人間関係の特質と問題点  
 (6)我々に要求される生き方  
 等をめぐって、学生諸君とともに探ってゆきたい。

【評価方法】 出席状況と期末テストから総合的に評価する。

【テキスト】 特に用いない。必要なときはプリントして渡す。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
00559 00560	西洋文学と映画における人間	選必	春学期 秋学期	各2	2~4	A. Volpe	
他の科目との関連						履修対象学科	全

【講義内容】 現代社会の消費主義的なメンタリティのため人間はただの「もの」として扱われてしまう危険が感じられる。人間の「物質」的な一部分は大事にされても、人間の「精神」が忘れられたり、あるいはただのはかない「気持ち」にされてしまったりすることになった。しかし、人間は肉体と精神で成り立ち、部分に分けることができない実在である。それを認めない人間の尊厳は消えてしまい、人間は疎外されてしまう。本講義では人間の尊厳をさげぶ文学と映画を通して全体としての人間の尊厳を考察する。

【講義計画】 講義は次の順序で展開する予定である。  
 1. O. ワイルドの『幸福な王子その他』を通して、愛から生まれる人間の尊厳を説く。  
 2. C.S. ルイスの『悲しみをみつめて』を通して、死んでゆく人の尊厳を論じる。  
 3. F. ジンネマンの『わが命つきるとも』の分析によって、人間の尊厳に対立する権力の問題を考える。  
 4. L. カヴァーニの『フランチェスコ』の視覚によって、神の子として人間の尊厳を論じる。  
 5. G. リヴァの『イエスを知るために』を通して、キリスト教による人間の尊厳を考えるなどをめぐって、いくつかの良い作品を紹介しながら考えてゆきたい。

【評価方法】 出席状況と期末テストから総合的に評価する。

【テキスト】 A. ヴォルペ『声 人間とその魂』（ドン・ボスコ社 1996）

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
00561	生と死のコスモロジー	選必	秋学期	2	2~4	大森 正樹	
他の科目との関連						履修対象学科	全

【講義内容】 死は人間にとって謎である。死をどこまで追いかけても、死そのものはわからない。他方、死を考えることは生を考えることでもあると言われる。そこで生と死を包括する観点から、この人間にとり究極の問題を取り扱ってみたい。

【講義計画】 上述の目的を果たすために、  
 (1)死生観について（哲学的、文学的観点から）  
 (2)心理学的に見た「死」の姿  
 (3)宗教と死  
 (4)性と死  
 (5)死を見すえて生きる  
 等の問題を考察する。

【評価方法】 出席状況と期末テストから総合的に評価する。

【テキスト】 特に用いない。必要な時はプリントして渡す。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
00562	宗教に見る人間の尊厳	選必	春学期	2	2～4	五百旗頭博治	
他の科目との関連						履修対象学科	全

【講義内容】 まず (I)、人間の尊厳についての聖書的、キリスト教的立場を理解するのに役立つと思われる幾つかの基本的側面——即ち語源的、存在論的、心身論的、来世論的、男女論的、環境論的、神像論的、ファミリタス＝神への人間の基本的態度としての謙虚の徳＝論的等々の根拠——について考察する。

次に (II)、キリスト教において人間の模範乃至は理想とされる神人イエス・キリストの神性と人間性とペルソナ性の問題に触れ、最後にわれわれ人間の神化はどのような意味と形において成就されるのかについて考察する。

尚各時間の始めには人間の尊厳や神の尊厳に係わると思われる宗教音楽（クラシック）の名曲のテープから1つの楽章を選んで聴かせる。

- 【講義計画】
- I. 1) 尊厳の語源的解釈について。
  - 2) 神によって創造された存在は凡て善（創1）であり、人間の身体も然りである。
  - 3) 万物の霊長としての人間は万物支配の指令（創1：26、28）によって環境破壊も許されるのか？
  - 4) 創世記にみられる神像としての人間と擬人的神観の問題。
  - 5) 男女の創造の記事（創2）と男女の愛の讃美（雅歌）。
  - 6) 原罪（創3）はそれ以後の人間の本性に対してどの程度のダメージを与えているか？
  - 7) キリスト教においては神への人間の態度の基本として眞理に基く謙遜が重視される。
  - II. 8) 新約聖書におけるイエス・キリストの神的、人間的、ペルソナの尊厳を示す記事。
  - 9) キリストの弟子達（使徒）にみられる神人イエス・キリストへの信仰と使徒的伝承。
  - 10) 古代における諸々のキリスト論的異端説とそれらに対する公会議の裁定。
  - 11) 教父ダマセヌスとトマス・アクイナスの問題解決
  - 12) 人間の神化（deificatio）は何時何如なる形で認められるものであるか？

【評価方法】 主として期末の筆記テスト（聖書と自筆のノートのみ参照可）によるが、出席状況もそれに加えて評価する。

【テキスト】 新共同訳聖書（旧約と新約）。但しIIの(9)(10)(11)については次の参考文献が有益であるので勧める：  
山田 晶著「トマス・アクイナスのキリスト論」（創文社、1999年）

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
00563	人間の生き方に関する哲学的考察	選必	秋学期	2	2～4	金子 善彦	
他の科目との関連						履修対象学科	全

【講義内容】 私たちは日頃、さまざまな暗黙の「決まり」のようなものに従って行動し、生活しています。たとえば、多分あなたは、約束はできるだけ守ったほうが良いと思って人と接しているでしょうし、自分の行動がもたらしたことは責任をとるべきであって、安易に責任を回避するべきではないと考えることでしょう。また、最近新聞をにぎわすいろいろな事件をみて、そんな不正は許されないと憤りを感じることも多いかもしれません。しかし何故、そのような「決まり」がより善いこととして優先されるのでしょうか。いったいそこにはどんな原理・原則が働いているのでしょうか。

「人間の生き方」とか「哲学」という、ともすると実生活から懸け離れた机上の空論と思われがちな主題も、もとをただせば、今触れたような具体的な日常の暮らし、人間社会に次々と起こってくる問題に端を発しています。この講義では、そうした身近な問題をいくつかとりあげ、そこに実は哲学的とも言える原理・原則が潜んでいることを明らかにすることで、「人間の尊厳」にアプローチしたいと思います。

- 【講義計画】
- ・ 私たちの身近にしばしば起ると考えられる具体的問題を取りあげ、それを特定のテーマとの関連で提示する。
  - ・ 講義の規模にもよるが、それについてディスカッションをする時間をできるだけ多く設ける。
  - ・ 必要に応じてレポートを課す。
  - ・ 関連するテーマに関して、代表的な哲学の議論を紹介し、それをもとにさらに議論を深める。

【評価方法】 講義の性格上、常日頃どれだけ積極的に参加したかを重視する（これは必ずしも出席回数を意味しない）。従って、授業中の態度や発言回数などに大きなウエイトを置く。

【テキスト】 特に指定しない。必要な場合はコピーを配布する。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者	
00594 00595 00596 00597	芸術と人間	選必	春学期 秋学期	各2	2～4	山 田 順	
他の科目 との関連						履 修 対象学科	全

【講義内容】 人間の心のはたらきは文化を創造し、育み、そしてまた、その文化が逆に人間の心のはたらきや営みを規定する。そこには、常に人間の創造的営みの循環が存在する。従って、人類の歴史的、芸術的文化遺産と向き合い、それらを深く理解しようとするは、まさに、その創造活動を担った、そしてその時代に生きた人間と出遭うことにほかならない。この講義では、古代からルネッサンスまでの絵画、彫刻、建築など西洋美術の作品を手がかりに、その具体的特質や様式的特徴、及び歴史的・社会的背景を明かにしながら、それぞれの時代の人間像・人間観を浮き彫りにしたい。

【講義計画】

1. イントロダクション、芸術活動と人間
2. 古代世界における芸術活動とその人間像
3.     : エーゲ海世界と古代ギリシア美術
4.     : 地中海世界とローマ美術
5.     : 初期キリスト教美術の発生と発展
6. ビザンティン美術にみる人間像
7. 西欧中世における芸術活動とその人間観
8.     : ロマネスク
9.     : ゴシック
10. ルネッサンスの成立と芸術活動
11. イタリア・ルネッサンス美術にみる人間像
12. まとめ、芸術的創造の可能性について

【評価方法】 出席状況及びレポートによる。

【テキスト】 プリントで資料を配布する。

【その他】 絵画、彫刻、建築など美術作品のスライドおよびビデオテープなどの視聴覚資料を多数使用する。

# 「人間の尊厳」科目（状況） 講義概要

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
00566 00567	産業社会の倫理	選必	春学期 秋学期	各2	2～4	櫻井 健吾	
他の科目との関連						履修対象学科	全

【副題】 19世紀の社会問題、ケテラー、補完性原理

【講義内容】 今日の世界は、人間に対してどのような倫理を要請しているのか。産業社会の成立期の19世紀にあって、この問題に正面から取り組んだ思想家として、ケテラー（1811-1877年）を取り上げる。ケテラーは、自由主義と社会主義との対決のなか、独自の理念を發展させ、その政治・社会・経済理念は、今日の世界に大きな影響を与えている。ケテラーという人物の活動を通して、上記の問題を考える糸口としたい。

【講義計画】 次のテーマについて講義する。  
 I. 産業社会の倫理：ケテラーと19世紀の「社会問題」  
 II. 産業社会とは何か  
 III. ケテラー（1811-1877年）の生涯と活動  
 IV. ケテラーの自由主義批判  
 V. ケテラーの社会主義批判  
 VI. ケテラーの社会・経済思想：慈善事業・社会改革・社会政策  
 VII. 個人主義か、それとも全体主義か：「補完性の原理」  
 VIII. 功利主義か、それとも階級革命か：「連帯の原理」  
 IX. エゴイズムと公共の福祉：「共同善の理念」  
 X. ケテラーの自由論

【評価方法】 出席とレポート

【テキスト】 プリント

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
00569	第三世界の諸問題	選必	秋学期	2	2～4	菊地 功	
他の科目との関連						履修対象学科	全

【講義内容】 冷戦構造の崩壊後、世界各地では民族対立に名を借りた地域紛争が頻発している。講義の前半では、特に中央アフリカ・ルワンダの内戦とそれに伴う難民発生問題に焦点を当て、その背景を探っていききたい。同時に、ザイールにおけるルワンダ難民救援事業に現実に携わった者としてその経験から、国際救援事業に携わる非政府組織の抱える諸問題と将来的課題、ひいては現在の国連の抱える問題点にまで言及したい。

講義の後半では現代日本が宿命として抱える海外援助の問題を、西アフリカ・ガーナでの8年間に渡る活動という現実的視点から国際ボランティアのあり方も含めて考察してみたい。  
 なお、カトリック教会のNGO「カリタス・ジャパン」が現在行っている、東南アジアや極東ロシアにおける援助活動についても、随時紹介していきたい。  
 また現地事情を理解する補助として、スライドも活用する。

【講義計画】  
 1. 現代世界の構造と第三世界諸国の立場  
 2. 現代世界における民族対立の構造とルワンダ内戦の構図  
 3. ルワンダにおける民族虐殺と難民の発生の背景  
 4. 国連の可能性と限界。PKO活動は真の平和をもたらすのか  
 5. 国際救援事業における非政府組織の活動  
 6. アフリカは本当に貧しいのか  
 7. ガーナでの生活から、海外援助を考える  
 8. カトリック教会の宣教と援助。日本人の宣教者達の声  
 9. 海外援助と第三世界の自立  
 10. 国際ボランティア。その活動と課題  
 11. 第三世界諸国で生きるために

【評価方法】 評価はレポートの提出をもって行います。

【テキスト】 テキストは特になし。講義において、一般書店で購入可能な参考文献を紹介していく。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
00570	現代宗教の社会倫理	選必	秋学期	2	2～4	R. Kisala	
他の科目との関連						履修対象学科	全

【講義内容】 現代宗教がいかに様々な社会問題に取り組み、その解決に貢献しているかを検討する。日本の宗教を始め、広く宗教と人権思想、平和運動、解放運動、環境保全など「人間の尊厳」に関わるものとの関係を考察する。

【講義計画】 「宗教」の捉え方、現代的社会倫理の成立、日本宗教の社会倫理、宗教と社会改革、社会倫理の行方というテーマで講義を進める。

【評価方法】 講義の際の質疑応答や出席を考慮に入れるが、5回提出する講義内容に対する感想・疑問・反論というミニ・レポートを最重要視する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
00571 00572	Foundations of Business Ethics	選必	春学期 秋学期	各2	2～4	P. LaForge	
他の科目との関連						履修対象学科	全

【講義内容】 The purpose of this course is to become aware of ethical issues. The course will consist of small group discussions about ethical questions.

There will be reporting sessions after the small group discussions. In order to learn how to think more deeply about ethical questions, time will be devoted to individual and group reflections and meditation sessions will also be held. The purpose of these meditation sessions is the personal growth of all the participants.

【講義計画】

1. A definition of business ethics. Readings. An introduction to nondiscursive Reflection Exercises.
2. Continued exercises in nondiscursive meditation. Art Work. An introduction to semidiscursive meditation. Environmental case work. Readings on Business ethics.
3. The Biblical picture of the world: an introduction to discursive meditation. Ethical standards. Ethical Models. Ethical ideals.
4. Application of the above to the social situation of Japanese Business.

【評価方法】 The Marking System is as follows: - Attitude in class  
- Attendance  
- Reports, with the possibility of a test

【テキスト】 The Book of Questions, Politics, Ethics by Gregory Stock.  
Publisher: Workman Publishing Company, New York, 1991

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
00573	強制収容所	選必	秋学期	2	2～4	三上 茂	
他の科目との関連						履修対象学科	全

【講義内容】 二十世紀は強制収容所の世紀でもある。強制収容所における人間の非人間化、大量殺戮の問題を考えながら、人間の尊厳の意味を問うてみたい。

【講義計画】 1. ナチス・ドイツの強制収容所  
2. 現代における大量殺戮

【評価方法】 小論文、期末テスト、出席状況を総合して評価する。

【テキスト】

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
00575	生命倫理学への招待	選必	春学期	2	2～4	土田 友章	
他の科目との関連						履修対象学科	全

【講義内容】 現代の技術社会において、人間の生・死・健康への医療技術の介入は新たな段階に到達し、人類の歴史において未曾有の問題を多く提起している。ここでは、脳死や臓器移植などを中心としてしばしば話題になっているbioethics（生命倫理学）を紹介しながら、そこでの諸問題を通路にして、人間と自然（環境）と技術との関わりを検討し、新たな人間学に向かってともに考えてゆきたい。

【講義計画】 1. 生命倫理学とは何か？  
(1) 脳死、(2) 死への自己決定権？ (3) 老い、(4) 安楽死・尊厳死、(5) 障害をもった新生児、(6) 臓器移植、(7) 医学実験、(8) 遺伝子治療など、の問題を事例によって検討しながら、告知、自己決定か否か、公正（正義）とは何か、患者にとっての最善とは、医療の社会化、などの倫理的問題を考えてゆく。  
2. 人間的生とは？  
上記の諸例を考えながら、現代世界及び日本人の倫理意識を検討し、また、人生を考える考え方を反省してゆく。

【評価方法】 クラスへの積極的参加が重視される。  
参加者各人が生命倫理的な問題を発見し考察する宿題を課す。また、期末試験を行なう。

【テキスト】 特定のテキストはないがビデオ教材を多く用い、また、複写した教材を配布する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
00578	中世の人間と法律	選必	秋学期	各2	2～4	O. Cavallar	
他の科目との関連						履修対象学科	全

【副題】 中世と文芸復興の時代に於ける人間の位置と尊厳

【講義内容】 西洋文明では、人権とこれに伴う人間の尊厳の意識は極く最近の現象だと言われるが、この人権の起源はフランス革命と啓蒙主義まで遡るといえるのが教養人の一般の見解かもしれない。本講義は、この人権の意識が西洋文明の舞台に登場する以前の状況と時代を検討する。欧州の社会と当時の法律文化に焦点を合わせて（特に十二世紀から十六世紀の初め頃まで——つまり宗教改革の直前まで）、どの様に人々の権利が考えられていたのかを問題にする。単純な法律史の解説ではなく、一般市民の日々の葛藤を調べながら、正義の日常の実践について追及する。そして、図書館に保管された有名な法学者とあまり知られていない

弁護士の意見（consilla）の記録を通して法律と社会との関わりを描写し、具体的に理解できるようにする。又、古文書館に埋没している裁判所の記録を通して中世の正義の実践を再構築する。聴講者が文献に潜んでいる可能性を認識できるようになることも本講義の目的とする。

講義の進展に従って、そして課題に従って主な参考文献を紹介し、必要な資料を配布する。

講義は日本語で行う。

【講義計画】

次の主な項目に従って講義を展開する予定。

- 1) 大学の世界：教師と学生の特権、法律を考える、法律を学ぶ、写本を受け継ぐ、(写)本の必要性、他
- 2) 職業倫理：法律学者、弁護士と依頼人との関係
- 3) 家族：財産、遺産、親子関係、女性の持参金、性による立場、他
- 4) 市民性：市民の諸相、二重の市民、外国人とユダヤ人の立場
- 5) 犯罪：殺人、墮胎、正当防衛、復讐、戦争、武器の禁止
- 6) 市の政府：市民政府から専制政治への移動

【評価方法】

出席状況、発表（発表の課題を前もって相談する）とレポート（発表課題を深める）を合わせて評価する。

【テキスト】

近くシカゴ大学出版社から出版されるJ. Kirshner & O. Cavallar、*Medieval Italian Jurisprudence. A Selection of Texts*の一部

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
00579 00580	人間開発と「尊厳」、21世紀に向けて	選必	春学期 秋学期	各2	2～4	富田 輝司
他の科目との関連						履修対象学科 全

【講義内容】

研究者としてではなく実践を心掛けながら生きようとしてきた私の自分史をひもときながら、アメリカ・アフリカ・アジア等での人びととの触れあいを通して学んだ、多様性をもった人間観・人生観とのつながりの中で「人間の尊厳」を考えてみたい。そして私たちの考えと人間の行動とのつながりの中でひとりひとりに秘められた人間観・人生観を探ってみたい。  
急激に変化する中で、21世紀に向けて私たちに何が出来るか、新しい行動の目標の構築に向けて一緒に考えてみたい。

【講義計画】

次の課題を中心に、学生参加型の時間を持つことができればと思っている。

- 1) 変動の中の「人間」観、グローバルな視点から
- 2) 人間観と「人間開発」
- 3) 人間観・人生観・社会観・自然観と人の尊厳
- 4) 異文化とのふれあいの中での人の尊厳
- 5) 生れること、生きること、そして死を迎えることと尊厳
- 6) 自己革新を目指して

【評価方法】

参加状況とレポート等をもとに総合評価を実施する。又学生諸君にも科目の評価（自己評価も含めて）をしていただく。

【テキスト】

特にないが、参考文献を随時紹介する。又学生からも参考文献や資料を提示してもらおう。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
00581 00582	アジア・日本の現実社会と「人間の尊厳」の侵害	選必	夏期集中 秋学期	各2	2～4	池住 義憲
他の科目との関連						履修対象学科 全

【講義内容】

「人間の尊厳」が現実社会の中で侵害されている。当科目では、そうした具体的な現実の問題を一緒に直視し、考えたい。日本国内だけでなくアジアを中心とする第三世界にも眼を向け、知識を増やすことを目的とするのではなく、私たち一人ひとりの人間としての根源的な生き方・あり方を探りたい。現実社会と自らを変えていくために。

- 【講義計画】 ワークショップ、ビデオやスライドなどの視聴覚資料と講義、開発教育ゲームやエクササイズなどを通じた参加体験型学習により、次の具体的な現実の問題・課題（案）に取り組みたい。
- (1) アジアを中心とする第三世界の民衆と「私」
  - (2) 間接的・構造的暴力としての南北問題と「私」
  - (3) 軍慰安婦問題・観光売買春問題と「私」
  - (4) 笹島・栄の日雇労働者（野宿労働者）と「私」
  - (5) 沖縄の人たち（ウチナンチュー）と「私」
  - (6) 死刑制度と「私」
  - (7) 被差別部落の人たちと「私」
  - (8) その他

【評価方法】 出席状況。それに「自己評価」！（自分にとってこの科目はどういう意味・価値があったのかを自分で『評価』してもらいます。）定期試験は実施しません。

【テキスト】 特になし。その都度、参考文献・書籍を紹介しします。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
00583 00584	人間の尊厳——特にその開始と終末に関して——	選必	春学期 秋学期	各2	2～4	寺尾 總一郎
他の科目との関連						履修対象学科 全

【講義内容】 一人一人のかけがえない命は、現代、自然科学の著しい進歩にともない、生命の発生と誕生、延命処置や安楽死など、人為的な操作が可能になり、話題になっている。そして、世界では人口増加が問題視される一方、日本では少子化と人口の高齢化が日々報じられている。自分自身または家族がこのような情況に直面し、また明日の社会のことを思うとき、どのような価値観に基づいて生きるのが健全かつベターであるかを考える一助となるような講義としたい。また、ビデオも教材として活用する。

- 【講義計画】
- (1) 性・結婚・家庭の目的と役割（応用：非婚、独身、離婚など）。
  - (2) 次の世代はどのように生み・育てられていくべきか（応用：体外受精、家族計画、意図しない妊娠、妊娠中絶、高齢化社会など）。
  - (3) 致命的疾患にかかったときの治療や対応の仕方（応用：病名の告知、延命治療、安楽死、ホスピスなど）。
  - (4) 「殺人の禁止」の例外として認められてきた戦争と死刑は人類が精神的に成長を遂げるべきだとするならば、どのような方向に向かうべきか。

【評価方法】 中間レポート（1回）と期末レポートにより評価。

【テキスト】 特に指定しないが、参考文献をその都度、紹介。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
00585	クローン技術と人間の尊厳	選必	秋学期	2	2～4	江本 金子（善） 蒔苗 山田（秀）
他の科目との関連						履修対象学科 全

【講義内容】 「羊のクローニングが成功した！」  
1997年2月23日、英国の「ガーディアン」や米国の「ニューヨーク・タイムズ」がこのニュースを掲載した。翌24日、この衝撃的なニュースはたちまち世界を駆け巡った。有名な科学雑誌『ネイチャー』の2月27日号にこの論文が掲載されたが、発売日までは報道規制がしかれていたにもかかわらず、その4日前にマスコミは、『ガーディアン』のすっぱ抜きを契機に、一斉に報道合戦を展開したのである。  
クローンとは「同じ遺伝子情報をもつ個体」を意味する。これまでもクローン生物と呼ばれるものは数多く作られていた。たとえばニンジンのクローンは高校の教科書にも載っている。一見難しそうに思えるが、クローン技術は身近なところで見ることができるのである。挿し木もりっぱなクローン技術である。また園芸植物のランなどは今やクローン技術により増産され、多くの企業がフラワー・ビジネスとして成

功を取っている。一方動物においては、それほど簡単ではないが、クローン動物をつくる研究は、核移植という技術を基に40年前から行われてきた。近年では畜産分野で実用化され始めている。

クローン技術は格別新しい技術ではない。にもかかわらずクローン羊“ドリー”の誕生が大きな衝撃となったのは、哺乳類の成熟した(分化した)体細胞の核を利用したという事実である。これまでは哺乳類における体細胞からのクローンは不可能であるというのが定説だったが、クローン羊“ドリー”の誕生は技術面での大きなブレークスルーをもたらしたのである。

クローン羊が大きな衝撃を与えたのには、このブレークスルーのほかにもうひとつの理由がある。体細胞の核をつかうことで、膨大な数のクローンを作ることが可能となる。この無限ともいえる多数のクローン生産技術は、他のさまざまなバイオ技術と組み合わせることによって、これまで考えることもできなかった技術を実現できるのである。たとえば、動物そのものを医薬品の製造工場にするとか、心臓疾患の患者の体細胞から心臓だけを培養し移植するとか、さまざまな応用が考えられる。こんなすばらしい技術を多くのベンチャー企業が見逃すはずはない。いくつかの医薬品について、いまや実用化目前まできているのである。

クローン羊“ドリー”が発表されてから、堰を切ったように、日本でも150頭以上の牛のクローンがすでに誕生しているという事実が公表された。さらにクローン技術に関連する研究を行っていた研究者たちは、先を競って自らの研究結果を公表し始めた。脳のないカエルを作ること成功したとか、サルを別の個体に移植し1週間生かすことに成功したといった薄気味の悪い研究まで新聞に載るようになった。“意識”や“自己”といった概念にまで深く波及する事柄である。もちろんマスコミの報道の仕方には少々問題があるものの、クローニングという技術の中に秘められている不透明な部分も計り知れない。欧米ではクローン技術を「ヒットラーのコピー」にたとえ、その危険性を訴えた。このような指摘に、行き過ぎはあったとしても、人間への応用には何となく不安を持つ人が多いことも事実である。これまで遺伝子治療などでしか問題にならなかった“遺伝子の管理(操作)”という問題もクローン羊の誕生で新たな局面を迎えることとなった。遺伝子治療で決められた「受精卵への操作は行わない」という倫理規制ももはや歯止めとはなり得なくなり、新たな研究倫理が求められる時代がやってきたのである。

現在、脳死における臓器移植が話題となっている。30年前初めて心臓移植が行われてから、さまざまな批判を浴びながらも、今では世界中で心臓移植は一般的な治療となっている。クローン技術もいずれはごく一般的な技術になっていくに違いない。臓器移植との大きな違いは、クローン技術の場合、その応用範囲がきわめて広く、社会を大きく変える潜在的な力を持っていると考えられる点である。

それだけに私たちはクローン技術の正確な知識を身につけ、この技術の行く末を見守る必要がある。

【講義計画】 講義は生物学、哲学、倫理学の側面からこれらの問題を検討し、最後に教員を含めた討論会(シンポジウム)で締めくくります。

- (1)現代生物学とは何をする学問なのか - 「生きている」ということを考える -
- (2)細胞の存在様式 - 細胞のさまざまな生き方 -
- (3)細胞分裂と生殖 - 増えるということと若返りということ -
- (4)クローンとはなにか - 自然界に存在するさまざまなクローン -
- (5)クローン技術 - 古代からあったクローン技術と最新の技術 -
- (6)クローン技術と遺伝子組換え - クローン生産の目的とは? -
- (7)生物学から見た「自己」とはなにか
- (8)クローン技術がその内に含まれる自然科学の基本的性格 - 哲学の視点から -
- (9)倫理の根底を考える (1) - メタ倫理学の立場から -
- (10)倫理の根底を考える (2) - 古代思想を手掛かりに -
- (11)「善く生きること」に奉仕すべき科学、技術の問題 - 倫理と法の視点から -
- (12)シンポジウム

【評価方法】 筆記試験

【テキスト】 テキストなし。授業の際に資料を配布し、参考文献を紹介します。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
00586 00587	近代教育の理念と現実	選必	春学期 秋学期	2	2~4	高畑 祐人
他の科目との関連						履修対象学科: 全

【講義内容】 近年、近代的な思想・制度は徹底的に見直され、批判を浴びている。教育もその例外ではない。近代教育思想の問題点は何なのか。はたして近代的教育の理念、したがってまた人間の理念は、もはやその有効性を失ってしまったのか。そうした問題を考えるために近代教育の理念を確立した哲学者カントの教育思想を取りあげて、その特徴を検討する。そのさい、現在の教育と子どもを取り巻く状況を対照させ、近代教育の理念の問題点と可能性を考えていく。カントと対極にあるシュタイナーの思想にもふれて、近代教育の積極的な面と負の面とをあわせて考えてみたい。

- 【講義計画】
1. カント哲学一般の基本的性格
  2. カントの教育思想
  3. 現代の子どもを取り巻く状況  
—とくに不登校問題を中心に—
  4. シュタイナーの思想、その意義と問題
  5. 近代教育理念の可能性

【評価方法】 筆記試験

【テキスト】 とくに指定しない。参考文献は講義の中で随時指摘していく。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者	
00590 00591	政治・暴力・倫理	選必	春学期 秋学期	2	2～4	友岡 敏明	
他の科目との関連						履修対象学科	全

【講義内容】 1998年10月16日、スウェーデン・ノーベル平和賞授賞候補者選考委員会が当時は無名のトリンプルとヒュームという北アイルランドの名を挙げて、彼らを授賞候補とすることを発表した。これは、1922年以来75年間にわたってカトリック系住民とプロテスタント系住民の間で繰り返された血塗られた闘争の恒久的な解決と、同地域に和解と公正と平和をもたらすための「協定」の締結を達成することに貢献した彼らの功労を顕彰するためであった。この「協定」は、合意を見た日（1998年4月10日（金）——正確には11日未明——）にちなんで“Good Friday Agreement”（「聖金曜日協定」）と呼ばれる。

「協定」に基づく自治のための議会と行政府は、現在（1999年10月26日の時点）、議会選挙と議席配分まで終えながら、カトリック側組織の1つ（シン・フェーン党）が武器放棄のスケジュールを明言しないとして、彼れらとの「議会」での同席を拒むプロテスタント側が行政府樹立に参加しないため、機能せず、したがって「協定」に謳う自治と和平への歩みがで頓挫している状況である。ただ、この行き詰まった状況の打開のために、誠実・真摯な話し合い（“Review”）が現在も続いている。

今後の事態の推移は、わずかの希望を残しつつ予断を許さないとされているが、少なくとも言えることは、英国の植民地の苦難から独立しようとするアイルランド人の人間としての当然の要求に出ながら、1922年の部分的な独立（26州が自治から独立へ）の後、残り6州（アルスター地方と呼ばれる）が宗教的・社会的・経済的利害の深い対立から英国に帰属したまま、相互不信と恐怖と怨恨と暴力と不平等を解決し得ない状況（いわゆる「北アイルランド問題」）は、アルスター地方が先行独立のアイルランド共和国に帰属しても、英国に帰属したままであっても簡単に解くことができないということである。それはどうしてであろうか。これに答えるには、問題の理論的解決の講釈ではなく、自らの相互和解に向けた物言わざる実践による以外に解法が存在しない歴史的背景と社会状況を理解する必要がある。

講義では、特に「北アイルランド問題」の淵源の一つをなす「アングロ・アイリッシュ条約」（1921年）の締結交渉で活躍し、反対派の凶弾に倒れた若き指導者マイケル・コリンズ（Michael Collins, 1890-1922）という具体的な人物を中心に据えて、彼の生き方と考え方に象徴的に現れる祖国統一と独立運動に内在する平和への希求とナショナリズムと暴力の複雑な絡み合いを考えることにしたい。

【講義計画】 講義は、次のように進める。

- (1) コリンズの時代までのアイルランド
  - (ア) 英国による征服以後のアイルランドの悲惨オレンジ教団の政治的役割
  - (イ) 数度にわたるホーム・ルール付与の試み
- (2) コリンズの時代
  - (ア) コリンズの生い立ちとキャラクター
  - (イ) イースター蜂起および「共和国宣言」等
  - (ウ) 対英国要人テロから「アングロ・アイリッシュ条約」調印と内戦
- (3) コリンズ以後の推移
  - (ア) 北アイルランド問題（不信・恐怖・差別）
  - (イ) テロと挑発と和解の模索

【評価方法】 問題意識への真摯な取り組み、したがって授業への取り組みにおける誠実度を参照し、定期試験における達成度で見ると。

【テキスト】 特に指定しない

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
00592 00593	メンタルヘルス	選必	春学期 秋学期	各2	2～4	梅 垣 弘
他の科目との関連						履 修 対 象 学 科 全

【講義内容】 従来「精神衛生」とよばれていたメンタルヘルスの概念が、最近「精神保健」という言葉に改められた。それは、現代のようなストレス社会にあつては、心に障害をきたしている人たちだけでなく、広く一般人をも対象として、その精神的健康を保持・増進させるための積極的な対策が求められるようになったからである。本授業では、そうしたニーズに応じて、新しいメンタルヘルスに関する理解を深め、人間の幸福について考察する。

【講義計画】

- 1 新しいメンタルヘルスの考え方
- 2 ストレスとの上手なつき合い方
- 3 ライフサイクルとメンタルヘルス
- 4 生活の場におけるメンタルヘルス
- 5 メンタルヘルスをめぐる諸問題

【評価方法】 レポートならびに出席状況により評価する。

【テキスト】 必要に応じて資料を配布する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
00598 00599	死者の尊厳	選必	春学期 秋学期	各2	2～4	寺 尾 寿 芳
他の科目との関連						履 修 対 象 学 科 全

【講義内容】 われわれが「人間」というとき、まず念頭に浮かぶのは「生者」のことであろう。しかし、この地点に立ち止まってよいものか。「死者」の問題はどこへいつてしまったのか。少なくとも宗教は、生者と同程度に死者を大切な実在として考えてきた。ならば、普段ごく当然視し、無自覚に過ごしているわれわれ生者の生も、実は死者によって支えられているのではないか。さらに現代精神の病理はこの死者を忘却していることに発しているのではないか。われわれは「生死一体」を謳う偉大な宗教思想を思い起こすことで、そのように考えることができよう。本講義では、宗教心の深層を視野に入れつつも、必ずしも既成宗教の教義に固執することなく、死者のリアリティを実感する道を回復すべく模索する。非宗教的／反宗教的な現代社会からの問題提起に応える方向で、「人間の尊厳」のうち見過ごされがちな「死者の尊厳」を再生してみたい。

【講義計画】 以下のテーマを扱いたい（多少の変更はありうる）。

- (1) 「犠牲者の居場所」 オウム「ボア」、少年A
- (2) 「死者と生者との交わり——鎮魂の原型」 日航機墜落事件、阪神大震災、チェルノブイリ
- (3) 「歴史の原暴力」 歴史主体論争、靖国問題、植民地主義、京都学派
- (4) 「宗教における死と来世」 諸宗教の死後生観（キリスト教と仏教を中心に）
- (5) 「伝統の苦悩」 宣教姿勢、差別戒名、第二バチカン公会議、真宗同朋会運動
- (6) 「死者の教導」 〈生者は死者に優越するか〉、聖徒の交わり、ノスタルジア
- (7) 「魂の覚醒」 中間的媒介者へ／からの配慮、癒し、魂づくり
- (8) 「可能性」 真の豊かさ、ボランティアリズム
- (9) 「総括」 〈諸宗教の倫理〉へ向けて

【評価方法】 出席状況および期末試験ないしはレポート等から総合的に判断する。

【テキスト】 特に使わない。参考文献は講義中に適宜紹介する。